

三菱 零式艦上戦闘機 22型

童友社 1/100スケールキット
製作・文：政府開発援助

1. 零戦22型について

海軍零式艦上戦闘機22型は、速度向上と引き換えに航続距離が短くなった零戦32型を改修した機体である。発動機は栄21型のままであるが、翼内燃料タンクの容積を増すことである程度の長時間飛行を可能とした。また、主翼端を零戦21型同様の折り畳み機構に戻し垂直尾翼に方向舵修正タブを追加する等した結果、運動性も32型より向上した。

現存する機体は少ない。[「零戦里帰りプロジェクト」](#)で飛行した機体は、1990年代にリバースエンジニアリングによって不足部品を新造した復元機である。

2. キットについて

童友社「翼コレクション」第15弾の零戦22型は新規金型（キャノピーのみ21型と兼用？）のキットで、プロペラ回転仕様（翼コレクションEXや翼コレクションSPSでのバリエーション展開）に対応しています。また、21型には無かったピトー管が再現されています。2009年頃ブラインドボックス状態で販売され、翌年には21型・22型・52型（旧金型）ブラインドボックスの第18弾が発売されました。

3. 製作と塗装について

第251海軍航空隊所属機、公認撃墜数87機を誇りエースとして名高い西澤廣義上飛曹の搭乗機を製作しました。ピトー管を伸ばしランナーで作り直した以外はほぼキットのまま組んでいます。アンテナはノコギリで切り落としていたとすることで、キットパーツを一旦接着した後にキャノピーから突出する部分を切除しました。

応急迷彩については比較的新しいキットであるハセガワの1/72零式艦上戦闘機 22型/32型（コンパクトキット）の塗装図を参考に、クレオスの暗緑色三菱系とタミヤラッカーの灰緑色をベースに調合した青畳色で塗り分けを修正しました。コクピット周りは機体内部色（三菱系）、カウリングは出回っているカラー画像（デジタル復元？）の印象が強かったのでクレオスのグレーFS36081を使用（全て筆塗り）。タミヤのシミ入れ塗料のブラック・ダークグレー・ダークブラウンを使い分けてシミ入れとウォッシングを行った後、クレオスの半光沢クリアーの缶スプレーを吹いてツヤを整えました。



前方より



後方より